



ベアリング工場の星

シリーズ 障害者の就労事例 20
松原教恵さん（NTNテクニカルサービス株式会社）

KOTONONE
Series of Stories
vol.20

編集部=文
text by KOTONONE
岸本 剛=写真
photograph by Tsuyoshi Kishimoto

仕事をしたいから
家事も覚えまじった
精密さと技術力が問われる職場で、
障害者が活躍している。
くじけることなく、
職人として育てるために、
どんな工夫がされているのか。
障害者は、仕事にどんなよろこびを
見つけているのか。

一〇年前に本格化した 障害者雇用

NTN株式会社は、世界的な規模でベアリングの製造を展開している企業だ。国内に関連会社をあわせて二七の生産拠点をもち、海外にも五一の拠点がある。その子会社であるNTNテクニカルサービス株式会社を取材した。この会社では、親会社のさまざまな周辺業務を受け持っている。ベアリング製造にとって、製造現場の技能継承は会社のいのち。定年退職した

るにあたっては、NTN本体工場の作業の効率化を図るような業務を切り出すことにしました。

目をつけたのが、製品を出荷するときの梱包資材の準備作業。「ポリ容器にビニールの袋を掛ける作業や、段ボール箱を組み立てる作業は、今まではNTNの正社員がやっていました。この作業の効率化を図ろうということで、夢工房で請け負うようになったんです。梱包の準備といっても、精密機械の出荷に関わる重要な部分だ。立ち上げ当初は納品した部署からのクレームも少なくなかった。「掛けた袋に傷があったら、ベアリングの油が漏れるなどのクレームがありました。精密機械を扱いますから、少しのミスも許されないので」と橋本さん。立ち上げ当初の夢工房は、まず工場内の信頼を得るところからはじめなければならなかった。

ゆつくりだけど、 確実に仕事を覚える

松原教恵（のりえ）さんは、夢工房にとって一人目の障害者として入社した。松原さんにとっても、二つ目の企業就職だった。「最初に勤めた会社はラ

高齢者を指導者に起用して、「塾」を開いて後進の育成に当たっている。

高齢者雇用に関して、NTNグループの障害者雇用のために、NTNテクニカルサービスが一〇年前からはじめたのが「夢工房」という名の障害者雇用施設だ。「もともとNTN株式会社として障害者雇用は行っていました。その取り組みを強化するべく、専門の部署を立ち上げようということになりました」と話すのは、NTNテクニカルサービスの橋本高雄主査。「立ち上げ